平成21年5月13日
土木学会コンサルタント委員会

土木技術者実践論文集 趣意書

土木工学が土木に関わる諸事業を通じて公益に資するものである以上、それら諸事業を支える構造や土質、水理や計画等の種々の「要素技術」の深化と発展が必要であることは論を俟たない。しかしながら、それら諸事業の成功は、それらの要素技術が個別的に適用されるだけで望めるものでは決してない。それら諸事業が成功し、それを通じて公益の増進が真に図られ得るのは、各種の要素技術を総合化・統合化する「土木技術者」個々人の具体的個別的なる「実践」があった時にのみに限られる。

そうした「土木技術者の実践」の中には、かねて様々な現場にて繰り返し適用されてきた標準的なものが含まれていることは想像に難くはない。しかし、各種の自然的社会的な諸制約が存在する困難な状況において、公益の増進を志す強い意志の下で紡がれた創意工夫に満ちた土木技術者の実践が、様々な形で存在していることもまた間違いない。そうした実践においては、仮にそこで援用されている「要素技術」が標準的なものであったとしても、その組み合わせを含む「実践の全体像」そのものが「新規」なるものであり、そして、その実践が他に模範となり得るという点において「有益」なるものである。そうした新規性、有用性を鑑みるなら、土木技術者の実践を高い完成度をもって論ずる論文が、新規性と有用性が求められる土木学会論文集に掲載するに足る十分な価値を持つことは何人も否定できぬところであろう。

「土木技術者実践論文集」とはまさに、そうした新規性と有用性を携えた土木技術者の実践を掲載するものとして提案された土木学会論文集の一分冊である。それは、様々な現場において個々の土木技術者による「良質な実践」についての、当人、あるいは第三者による報告、紹介やその解釈、分析、評論を掲載するものである。そしてそれを通じて、日本内外の現場における土木の実践の質的向上を期し、ひいては公益増進を目指すものである。そしてさらにはそれらを通じて、土木工学の「真の総合工学」としてのさらなる発展に寄与することを目途として提案されたものである。

以上